

令和8年度第1回 香南市社会教育委員会

議事録

■開催日時：令和8年7月8日（水）14:00～17:00

■開催場所：香南市役所6階 601・602会議室

■出席委員：小松喜久子委員長、村神多賀良副委員長、清藤真知子委員、中元美世委員、北川俊一委員、井上準二委員、谷間久昭委員、近森憲一委員、公文信二委員、末延一人委員

■欠席委員：森田真弘委員、久武美紀委員、長野秀顕委員、宇賀孝篤委員、小松健一委員

■事務局：山崎生涯学習課長、中川生涯学習課長補佐、小串生涯学習課長補佐兼スポーツ振興係長、角原補導センター所長兼青少年育成係長

【次第】

1. 開会

2. 生涯学習課長あいさつ

3. 社会教育委員について

4. 自己紹介

5. 委員長および副委員長選任（委員長あいさつ）

6. 議事

（1）令和8年度香南市教育委員会重点取組（生涯学習課）

（2）令和7年度社会教育事業実績について

（3）令和8年度社会教育事業計画について

（4）その他

・香南市公民館等使用料減免に関する規則の改正について

・公共施設使用料の免除に関する嘆願書について

・統合型公共施設予約システム構築事業について

・移動図書館車の導入について

・よさこい高知文化祭2026の実施状況について

7. その他

（1）第48回中国・四国地区社会教育研究大会香川大会について

（2）第68回全国社会教育研究大会大阪大会について

【議事】

■事務局 （1）令和8年度香南市教育委員会重点取組（生涯学習課）について 説明

（2）令和7年度社会教育事業実績について 説明

（3）令和8年度社会教育事業計画について 説明

■委 員 資料11ページの文化財の地域学芸員講座とあるが、この受講者の方たちに今後どのように活躍していただきたいか考えはあるか？

■事務局 今回、11名の方に受講いただいたが、この方たちが活躍する場を設けなければいけないと考えている。しかし、1回学んだからすぐできるというものではない。

■委 員 確か県下で講座を実施しており、今年は別の市町村で開催すると聞いている。

■事務局 内容としては、基礎から始まる10回の講座を受けることになっている。その中で受講者の方は自分が専門分野として学びたいと次の展開に移っていく。その方達をどのように活用していくか内部でも協議したが、学び続けていただかないと、中心になって活動いただくことは難しいので、市としては今後も関わりを作っていく。また、催し物がある時は、参加いただき発表の場を作っていくことを考えている。

■委 員 文化財保護委員の代表もお越しいただいているが、会の中でも話し合いはあったか？

■委 員 ボランティアの活動を推進していくという話は出たが、具体的な話には至っていない。

■事務局 どのように学んだことを地域に還元していただくか、自分の学びの延長上に市と連携してできる部分があればお願いしていきたいと考えている。

■委 員 次に15ページの青少年育成の取組について、香我美町の青少年の会でも発言させていただいたが、モルックの大会で参加者に地域差があったと話しがあった。香我美町は参加が0であり、学校行事と日程が重なっていたことが原因とのことであった。しかし、私の考えでは、なぜ財政状況が厳しい今、モルックをやる必要があるのかと思った。皆様に考えていただきたいのは、SNSの影響もあり、子どもたちが引き籠ってしまっているという現状であり、彼らを地域の方たちと繋いでいくということである。そのきっかけ作りでモルックを行ったのは趣旨としては、良いと思ったが、それならば地域の中で、まちづくり協議会や公民館教室で行っている事業も、同じ役割を担っているのではないかと思う。人手不足が厳しい中で、わざわざ無理をして新しくモルックを行わなければ良かったのではないかと思う。

■事務局 スポーツの事業でもモルックを行っており、重なる部分もあったが、青少年の事業としてやってみたら、なかなか面白く、役員会でも全地区でやるということになったので、昨年度は実施した。周知の仕方や日程の調整の仕方が上手いかず、香我美と夜須の参加率が低かった。その反省を生かしながら、市も協力して盛り上げていきたい

いと考えている。そもそも青少年育成会議は各地区に支部があるが、香我美、赤岡、吉川、夜須の存続が難しくなってきたと話がある。特に赤岡、吉川、夜須は公民館の館長が青少年の代表をする形になっており、夜須は公民館長が地域と連携しながらやっているが、赤岡、吉川は公民館が無いので、支所長がやっている。そのため、組織として活動するのが中々難しい状況である。支所長がやっているということは、まちづくり協議会が青少年を兼ねてやっているということである。しかし、抱えている事業が多すぎることや、役員が兼務しており人材も少なく、地区の青少年健全育成に力を入れることが難しい。末延委員がおっしゃるように、香我美町も忙しいのでやらないという考え方はいいと思う。地域ごとに子どもたちを見守り、3世代交流の事業を実施いただくのが一番いい。赤岡、吉川については、組織として活動が難しいという回答があったことをこの場でご報告する。モルックについては、軽スポーツとして位置づけられており、スポーツ推進委員さんも講習を受けて教える体制づくりをしている。今回は日程調整が上手くいってなかったが、市としては展開していきたい。モルックは高齢者でも誰でもできるスポーツなので計画的に事業を展開し、地域に根付かせていきたい。高齢者クラブも解散してしまっているが、団体を存続させていくことが難しくなっている。この会の中でも、存続に向けたご意見をいただいきたい。

■委員 29ページの図書館の利用実績があるが、香我美図書館の利用率が低くなっている。移動図書館の話が上がっているのですが、このままでは香我美図書館は閉館になるのか危惧している。しかし、野市町、香我美町それぞれの人口比率で考えると、香我美も思ったよりは利用者がいるという見方もできる。それも含めてこれからの動向を見ていきたいと思っている。

■事務局 実際、全体としての視点で話をする必要があると考えている。地区の人口比率で割り戻しすればいいものでもないと思う。一番大切なことは、26ページにある実利用者数であり、本を借りた方の人数である。コロナ前の2016年に野市図書館で2,792名の方が本を借りられた。しかし、2025年は2,179名と約600名減少している。この数字が重要であり、市がアンケートを取った時に「高齢で図書館に行けなくなった」という声が多くあった。本を借りる方法として、移動図書館で地域を回り、実利用者数を増やしていくことが大切だということになった。実利用者数を増やしていきたい。

■委員 今年度の計画について、香南市の財政が厳しい中で、色々と事業が縮小されていくと思うが、社会教育委員会では全体の予算のことが出てこない。全体で昨年度と比べてどれだけ予算に影響が出ているか、また、補助金や助成金も含め、厳しい財政状況の中で、どのように予算確保し、実施していくのか？今後の動向も含めて教えていただきたい。特に補助金は、去年並みで予算計上しているようだが、要望があって、予算が付くわけで、去年と一緒にという考え方で今後いいのかとは疑問に思っている。

■事務局 具体的な数字だと、分かりやすい部分では公民館活動費である。R6年度は2,948万5千円であったのが、R7年度は2,201万円、R8年度は1,815万6千円と減少を続け、公民館の事業として運営する経費が2年間で1千万円以上減っている状況である。以前は、講演に有名な講師を呼んでいたが、現状は県等の補助金を活用しなければそれは難しくなっている。また、補助金については、行財政改革が行われており、令和8年から10年に向けての指針ができています。しかし、3月にできたものなので、今年度の予算については、変化はない。来年度以降、補助金の金額の見直しが発生する。各団体との折衝になってくるが、基本的に生涯学習課としては、今の予算を減らすつもりはない。財政から一律5%減の指示を出されたら難しいが、補助金が少額で、これ以上減らされると継続が難しい団体もあるので、多い団体を減らすなどして、調整していきたい。特に補助金の繰越金がある団体については、削減ができないかを調整していきたい。むやみに補助金削減したら、団体の継続が難しいとは思っているので、なるべく避けていきたい。生涯学習課は行財政改革をする前から、削減しているので事業の継続が難しいので、それも含めて財政と協議していく。

■委 員 香南市のこどもよさこいについて、令和9年度をもって解散すると聞いている。補助金が300万あるが令和10年度からなくなることになる。

■事務局 こどもよさこいの解散については、市長の政策的判断によるものである。発足の理由は、合併後に子どもたちを中心に香南市の名のもと一致団結しようというところから始まっている。それが20年経った今、その成果も挙げられたのでやめるということである。また、今の補助金の考え方として、市が実行委員会を立ち上げて、運営しているが、今後、300万円の補助金の予算を残し、子どもたちを連れてよさこいに参加したいという団体がいれば、商工会や観光協会が中心になって活動する等して、継続することも考えられる。現時点では不確定であるが令和9年度には方向性が固まる見込みである。

■委 員 前回の会でも言ったが、社会教育委員会で話した内容が、職員に伝わっていないということがあった。担当が講師の方に一方的に話をしており、講師の準備ができておらず、開催ができないという事例もあったと聞いている。講師を依頼する時に目的を考え、講師の方の都合も考慮して計画を立てることや、その引き継ぎや連絡体制を確立して欲しい。

■事務局 以前、担当と講師とのやり取りで上手くいっておらず、ご迷惑をお掛けしたことがあった。今のお話だと引継ぎも上手くいっていないようである。講師あつての事業であるため、改善していきたい。

■委 員 3館同時に実施する事業もあるが、地域性も考慮して無理の無いような体制で実施

していただきたいと思う。

■委 員 事業の計画について、教室は、伝統文化として残すべきものは参加者が少なくても、計画から外すのではなく、子どもたちに体験会をする等して残していった欲しいと思う。

■事務局 (4) その他 ・香南市公民館等使用料減免に関する規則の改正について 説明

■委 員 一番危惧しているのは、市内の団体についての減免措置であるがどうなるのか？

■事務局 決定してはいないが、近隣の市町村よりも現状高い減免割合になっているので、それも考慮して検討していく。今までは冷暖房使用料を別途いただいていたが、それが使用料に含まれる形で見直していくので、全体の使用料収入としては、減少する見込みである。県下でも同規模の市において、100%減免で貸し出しているところはない。

■委 員 使用の申請もシステムで電子申請になるとのことだが、岸本の場合は、スマートロックの機械が取り付けられないという話がある。公民館で受けなければならないのか？

■事務局 キーボックスという形になる。電子申請ができない方は公民館に受けていただくことになる。市としては、紙での申請より電子申請を推進していく方針である。地元説明会もスマートロックの業者に来てもらい実施する予定である。なるべく公民館長に負担のかからない体制づくりをしていくつもりである。

■委 員 今年も何件か新規の団体による申請があった。既存団体には、説明会を開催するが、その場合は、どこに繋がればよいのか？

■事務局 館長にやり方を教えていただくのか、館長が対応できない場合は、ふれあいセンターを案内していただければと思う。ホームページにも使用方法を掲載するのでそれを見ていただくこともできる。

■事務局 (4) その他 ・公共施設使用料の免除に関する嘆願書について 説明

■委 員 園児は香南市の子どもだけか？

■事務局 市外の子どものもいると聞いている。補足として、平成29年度から50%減免で令和3年度から全館貸し切りで100%減免としたが、揉め事が起きてこのようになった経緯がある。令和2年度に貸した際に子どもが走り回り、停めてはならない場所への駐

車があるなどして、同時刻の利用者とトラブルになっている。その時の館長の考え方として、全館貸し切りならばトラブルも起こらないとして、今の体制にしてみました。また、館長の考え方として、全館借りたら、料金が高いが、公立の保育・幼稚園も、認定の保育・幼稚園も同様に県の許可をもって設立されていることから、折衷案として、「公民館等使用料減免に関する規則第3条の(3) 本市及び教育委員会が主催又は共催する事業に利用するとき」を拡大解釈して全額減免とした。しかし、こども課に確認したところ、市は共催ではなく、関わっていないという考え方であり、この解釈をすることはできないということになり、認定こども園の園長と話し合いをしたが、100%減免を認めてもらいたいとの嘆願書が提出されたという経緯である。

■委 員 今後、野市でも保育・幼稚を民営化に進めていく動きがあると思うが、流れとしては公設民営ということか？

■事務局 そうである。行財政改革の中で野市保育所を民営化するという話があるが、建物自体は公設ということになる。そのため、この件を通すとなれば、同じく最大で50%減免という形になる。しかし、本来であれば保育所経営において、催し物をするとすれば園内で実施するものである。過去は100%減免にしたこともあるが、本来であれば営利目的で実施する場合は貸せない。その境も難しいが、認定こども園が香南市の保育行政を保管してくれるという面で50%減免としている。

■委 員 条例を読み取る限りでは50%減免までしかできないということはわかった。

■事務局 他の市だと、南国市のように元々公立の幼稚園が少なく、民間を進めてきた市とは、減免の考え方の違いはある。香美市は50%減免と書ききっている。高知市は減免していない。今の条例の改正がなければ香南市はこのままいくと思う。

■事務局 (4) その他 ・統合型公共施設予約システム構築事業について 説明

■委 員 使用する団体が文化協会の団体等、種別訳はできるのか？その確認方法は？

■事務局 事前に団体の登録をしてもらう形になると思う。詳細は説明会でお知らせする。

■委 員 条例上、予約と同時に事前納付で使用料を支払わなければならないとなっているが、それは変更しないか。

■事務局 令和9年度は、冷暖房使用料が後払いになるため、施設使用料も含めて、運用上は後払いになると思う。その後については、事前納付の形をとる。

■委 員 予約は早い者勝ちということになるのか？

■事務局 団体の区分によって優先予約の時期が決まっており、空いたところに一般団体が予約できる形になる。

■委 員 予約はいつからできるのか？

■事務局 ホールは11カ月前からできる。その他は施設によって変わってくる。まちづくり協議会等は優先的に予約ができる。

■委 員 予約し、入金してやむを得ない理由で予約をキャンセルした際に使用料の返金はできないのか。減免が見直された際に100%減免が無くなると予約がしにくい場合が発生すると思う。

■事務局 返金はしない。

■委 員 弁天座は、1年前から予約しなければいけないが、使用料は決算上はどの年度になるのか。

■事務局 それは団体の決算で支払った年度の決算に入れてもらうことになる。

■委 員 文化協会等補助金を貰っている団体でも次年度の支出を補助金充当していいものか。

■事務局 団体を運営するための支出であればそれは仕方ない。

■委 員 今は予約のみで支払いが発生していないが、システムに移行することで予約時点で支払が発生することになる。キャンセル料が発生するまでの期間は設けないのか？

■事務局 そこまで考え切れていない、ホールについては、キャンセルを認める運用をしてきたが、高知市などのように7日前からキャンセル料が発生するという期間を定めなければならない。今後、設定される可能性はある。部屋などは、自己都合でのキャンセルは認めない方針である。

■事務局 (4) その他 ・移動図書館車の導入について 説明

■事務局 補足として、令和6年度に支所を通じて、移動図書館の駐車場所のアンケートをとったところ、49か所が候補地として挙がっている。また、高齢者施設や保育・学童も

回って欲しいとの声も要望もある。元々、2台という計画であったが、今回は1台ということになる。予算が取れたら2台目も検討するが、今のところ、週1回、職員2名で7か所ずつ回る予定である。これが地域で子どもと高齢者とが関われるコミュニティの場所になって欲しいと考えている。また、子ども司書養成講座も行っていることから、その子どもたちが移動図書館に乗って、高齢者の方に説明して回るということも計画している。現在は野市以外を中心に回る予定である。週1回、7か所としているが、慣れてくると、1日に回れる個所数も増えると思うので、試行錯誤しながら進めていきたい。

■委 員 誰に貸したのか、紛失の心配はないか？

■事務局 車の中に貸し出しシステムが入っているので、その場で貸し出す分については、管理ができる。巡回図書として地域の施設に置いていく場合は館長に管理してもらう等、注意が必要である。

■委 員 何冊積めるのか？

■事務局 500冊である。

■委 員 野市でも同じようなことをしていたが、廃止になった理由は？

■事務局 昭和62年から平成16年まで、野市町で移動図書をしていたが、平成4年のピーク時には、1日68名の利用者がいた。しかし、平成16年には18か所で6名となり、費用対効果が低いため、財政に予算を切られたというところである。当時は大型車であったため、シルバー人材センターに運転をお願いしていた。

■委 員 500冊をどうやって選ぶのか？

■事務局 500冊については、希望を聞き取りしていく。事前予約のある方は別途箱に入れて、それを持っていく。

■委 員 図書館の蔵書検索システムがあるが、それとも連動させるのか？

■事務局 連動させる。そこで事前予約ができることになる。

■委 員 自分も図書館に行って見て回ることで、新たに本を見つけることがある。県外の手組では、移動図書ではなく、人を図書館に連れていくというものもある。

■事務局 香南市の本屋も１ヶ所になり、本好きな人も減ってきている。色々な意見を聞きながら、方法を検討していく。

■事務局 (4) その他 ・よさこい高知文化祭2026の実施状況について 説明
質疑なし

【その他】

■事務局 (1) 第48回中国・四国地区社会教育研究大会香川大会について 説明
(2) 第68回全国社会教育研究大会大阪大会について
質疑なし

(閉会)